

SUZUKA 2&4 RACE

2007年 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第2戦
2007年 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第2戦 (JSB1000)

直前情報!

2007 **4/14** 予選 SAT. **15** 決勝 SUN.

JSB1000

MFJ全日本ロードレース第1戦スーパーバイクinもてぎ ポールポジション亀谷、優勝は渡辺。そして2-3位に山口と森脇!!



第1戦の表彰式

左から2位の山口、1位の渡辺、3位の森脇

全日本ロードレース初のノックアウト方式の予選は、あいにくのウェットコンディションと低気温となったが、ここで亀谷長純がタイヤ温存の巧みな作戦でポールポジションを獲得。ノリック阿部は難しいコンディションのなか、さすがとうならせる走りで2番手。そして3番手には、やはりズバ抜けたテクニックを誇る秋吉耕佑がつけた。

決勝レースは、予選のウェットとは一変、気温は20℃超となり、世界選手権を闘っていたとき同様のロケットスタートを見せたノリック阿部がトップに立つ。しかし、後続を引き離すことはできず、緊迫した集団戦となったが、その後ノリック阿部と中須賀克行が徐々に後退。代わって、渡辺篤が山口辰也、森脇尚護、柳川明のトップグループに加わり、レース終盤ではこの集団を抜け出して



優勝した渡辺篤の走り

開幕優勝。2位に山口、3位に森脇、柳川は4位、ノリック阿部は5位となった。

優勝した渡辺は、下馬評通りの強さを発揮。山口と森脇の仕上がりは好調で、地元鈴鹿での1-2に意欲を示す。さらに柳川、ノリック阿部、中須賀、秋吉らも反撃に向けて虎視眈々。鈴鹿2&4レースは、早くも07年シーズンのクライマックス・レースとなる!!

フォーミュラ・ニッポン

タイトルのために絶対鈴鹿を獲る!

松田次生チャンピオンチーム移籍2年目の決意!!



松田次生

富士スピードウェイで開催された2007フォーミュラ・ニッポン開幕戦は、モバイルキャスト・チームインパルのB・トレイエとチームメイトの松田次生のトップ争いに、ルーキーJP・デ・オリベイラが絡む展開となったが、終始トップを守り続けたトレイエが優勝、オリベイラとの激しいバトルを制した松田は終盤トレイエを追うものの、一歩及ばず2位となった。

この松田にとって今季のフォーミュラ・ニッポン、シリーズ第2戦は、これまで戦ってきた中で、おそらく最も重要な1戦となるはずだ。これまでも鈴鹿ラウンドは重要な戦いだった。三重県桑名市出身。鈴鹿サーキットから車で40分ほどの所で生まれ育ち、中学2年のときに観た鈴鹿F1グランプリでレーシングドライバーを志し、97年にSRS-F(鈴鹿サーキットレーシングスクール・フォーミュラ)入校。スカラシップを獲得してレースデビューを果たした。鈴鹿は自分が育った場所であり、誰よりも知り尽くしているコースだ。「鈴鹿には友人、知人多くの人が応援に来てくれる。やはり力が入る。」と語る松田だが、これまで鈴鹿で3度の予選PP(ポール・ポジション)を獲得しながら、決勝最高は2位。鈴鹿で勝つことが松田にとっては大きな目標なのだ。

だが今年は同じ鈴鹿優勝も、その意味はこれまでと大きく変わった。昨年、元祖日本一速い男、星野一義氏率いるモバイルキャスト・チームインパルに移籍。チームは早々に第7戦でチームタイトルを獲得したが、ドライバーズチャンピオンはチームメイトのトレイエが獲得した。トレイエ4勝に対し、松田は1勝でランキング

2位。今年はどうしてもタイトルを獲得したい。だが今季開幕戦はトレイエに先行されてしまった。

しかし鈴鹿で勝てば状況は変わる。「鈴鹿はフォーミュラ・ニッポンの中で最も難しいコース。ここで勝つことはライバルに大きなプレッシャーを与えることになる」からだ。自分に自信をつけ、ライバルにプレッシャーを与える。これこそがチャンピオン獲得に必要なこと。だからこそ今回の鈴鹿は負けるわけにはいかないのだ。「絶対に獲る」これまでにない固い決意とともに、松田は鈴鹿サーキットに乗り込んでくる。